

# Japanese Association of Veterinary Anatomists News Letter

日本獣医解剖学会報

Number 37

February 21<sup>st</sup>, 2011

## <巻頭挨拶>

### 共通テキストの作成

会長 九郎丸 正道 (東京大学)

前回のニュースレター36号の巻頭挨拶の話題としてコアカリ(モデル・コア・カリキュラム)を取り上げましたが、今回はその話の続きになります。講義および実習コアカリの作成は獣医解剖分野を含むすべての分野でこの3月までに終了し、その後、印刷・公開されることになっています。コアカリは「教育の質を保証する3つの手法」の第一段階に相当し、コアカリ作成終了後の次のステップ(第二段階)として、共通テキストの作成が要求されています。共通テキスト(講義分のみ)作成は春の日本獣医学学会術集会開催の時期あたりに、関係の委員会より各分科会宛に有無をいわずに依頼される予定のようです。共通テキストは、講義で使用される教科書とは別物であり、あくまでコアカリに準拠した冊子であることから、獣医学教育の内容全体の6~7割を占めるコンパクトなものからなり、基礎的な項目の理解を促すことによって、学生の学習の便宜をはかろうとするものです。共通テキストの作成は、もちろん第三段階である共用試験(4年生から5年生に進級する際、学力をはかる全国共通試験)の実施を見越したものであり、共用試験実施後には共用試験に対応したテキストという位置付けになると思います。共用試験の実施については、試行期間も含めて完全実施までに6~7年程度かかると見られているようですが、コアカリに基づいた新カリキュラムが平成24年度入学の1年生から学年進行で適用される運びとなっていますことから、共通テキストの作成・出版もこれに対応させる必要があります。解剖関係の講義は、1年生の段階から実施されている大学もあると思いますので、これから1年以内に出版するのが理想ですが、これはかなり難しそうで、編集や刊行の作業を入れるとどうしても1年半程度の時間は必要のように思います。獣医解剖分野の共通テキストの編集につきましては、これまでコアカリ作成に関わって来ました尼崎 肇先生(日獣大)、小川和重先生(大阪府大)、九郎丸が引き続き取りまとめを担当し、獣医発生学は尼崎先生が、獣医組織学は小川先生が、獣医解剖学は九郎丸が、それぞれ編集責任者となる予定です。もちろん、編集責任者だけで出版するわけではなく、獣医解剖学会会員の先生方のご協力が必要不可欠です。また、出版の担当は学窓社にお願いしました。以上の点、ご了解のほど、よろしくお願いたします。獣医解剖分野では獣医発生学、獣医組織学、獣医解剖学を1冊に取りまとめ、ソフトカバーで5~6千円程度の安価なものを共通テキストとして出版しようと考えています。今回特に問題となるのは解剖図ですが、短期間で数多くの詳細な解剖図の作成は難しいので、執筆ご担当の先生方には簡単な原図を作成していただいた後、それを元にプロのイラストレーターに統一したタッチの図を起こしてもらおうと考えていますが、経費や図の著作権の問題等、検討すべき点が少なからずあります。この共通テキストですが、将来的には電子書籍とすることも考える必要があると思われます。

ということで、獣医組織学の改訂(第五版)が終わったばかりのところ大変恐縮ですが、今後、原稿執筆のご担当を決めさせていただき、この4月よりそれぞれの先生にご執筆をお願いしたいと存じます。コアカリおよび共通テキストは将来に渡って改訂を進め、より適切なものにして行く必要がありますので、今回は、特に若い先生方を中心にご執筆を依頼しようと考えています。お忙しい中とは存じますが、なにとぞご協力のほど、よろしくお願いたします。

(平成23年2月7日記)

## <海外報告>

### 韓国における獣医解剖学教育事情

木村 順平 (ソウル大学獣医学部)

ソウル大学獣医学部韓国では9つの国立大学と1つの私立大学(建国大学)において獣医学教育がなされている。日本同様6年制教育であるが、最初の2年間は予科と呼ばれ、一般教養科目(Medical terminologyや遺伝学を含む)を

履修し、入学後3年目から専門教育がスタートする(本科)。各大学の解剖学(組織、発生を含む)担当教員数は、江原大学(2)、建国大学(3)、慶北大学(3)、慶尚大学(2)、ソウル大学(4)、全南大学(2)、全北大学(4)、済州大学(2)、忠南大学(2)、忠北大学(2)である。全大学の教育事情は把握が不十分なため、私が所属するソウル大学における状況を紹介します。

担当教員4名中2名が肉眼解剖学(私はこちら)、1名が組織学、1名が発生学をそれぞれ担当し、本科1年次学生(約45名)を対象に講義、実習を行っている。ソウル大学獣医学部ではクォーター制が採用されているが、肉眼解剖学については1~3クォーターに週6時間の講義(月曜3時間、木曜1時間、金曜2時間)と月曜午後に実習が実施されている。実習は午後1時半から開始され、遅いときには午後9時を過ぎるまで行われる事も少なくない。教科書は講義ではDyce他のTextbook of Veterinary Anatomy英語版と、実習ではEvans他のGuide to the Dissection of the Dogの韓国語版を指定しているが、迷訳(?)された韓国語が良く理解できず、寧ろ英語版を使用している学生も多い。実習では犬の解剖がメインで約5名に1頭の犬を用い、充分に時間をかけ詳細に解剖を行う。犬は役割の終了した軍用犬(シェパード)を多く用いている。犬の他には牛、馬、山羊、豚についても比較解剖が行われている。講義は韓国教員の場合は韓国語で行われているが、パワーポイントでは、英語が多用され、解剖学用語については英語を主に使用し、韓国語用語も同時に習得させている。ちなみに私は英語で講義をしているが、ソウル大学の多くの学生は入学の時点から英語理解能力が極めて高く、また、北米の大学を卒業している韓国系アメリカ・カナダ人や韓国人を編入学生として積極的に受け入れているため、特に問題は感じていないし、大学院でアメリカに留学を希望する学生も多いため、むしろ歓迎されていると勝手に判断している。因みに、英語による授業は私の科目以外にも、本科1年次開講の生命工学でドイツ人専任教員が、また、本科3年次開講の動物行動学で日本人客員教員(北里大学)が集中講義で実施している。クォーター毎に期末試験があるが、小テストも頻繁に行われて、学生も学習効率を考え、むしろ、頻繁にテストが実施されることを希望している。よって放課後や週末における学生の勉強時間は長く、学内には24時間使用可能な多くの自習室があり、深夜の2時3時でも勉強をする学生の姿をよく目にする。

実習の指導は大学院生(TA)が主体になって行っている。ソウル大学の院生は将来、大学で教鞭をとる可能性が大変高い為、実習における教育経験を積んでいる。よって、実習指導に必要な知識や技術の習得について、研究活動と併せて、日頃から研鑽している。新学期は2月末からスタートするのだが、正規の授業実習が始まる前の1週間、本科2年生が新入生に骨学の一部について講義・実習を行う伝統がある。教える側の2年生はその準備の為に、教員の指導の下、勉強が必要である。学生同士の学習は教育効果が高く、大学への帰属意識も高まり、さらに学生間の意思疎通がスムーズとなって、クラス内で学生が孤立する事が無い。

組織学については1~3クォーターに週3時間の講義と2時間の実習が行われ、教科書としてはDellmann's Textbook of Veterinary Histologyの韓国語版が使用されている。実習は肉眼解剖学同様、TAの院生が良く活躍している。発生学については1~2クォーターに週3時間の講義があり、教科書はMcGeadyのVeterinary Embryology(英語版)を使用している。

ソウル大学獣医学部の大学院には2年制の修士課程、3年制の博士課程および5年制の修士博士統合課程がある。現在、約150名と多くの院生が在籍している為、大学院教育も充実を図っている。また、フィリピン、ネパール、エジプト、バングラデシュなどからの留学生が多いため英語での講義が多く、スクーリングが真面目に行われていて、私も前期には野生動物の解剖学、後期には実験動物の解剖学を開講し、他研究科の学生や留学生も含め、約40名が受講している。解剖学関係では他に神経解剖学、解剖学研究手法などの科目も開講されている。また、海外、特に日本から講師を招聘し特別講義も行われている。学部で獣医学を専攻していない院生も特に基礎系の研究室では多く在籍しているので、これらの学生を対象にした「動物の解剖生理学」も開講されている。因みに、韓国の研究室体制はアメリカ式を採用していて、一教員が一研究室を運営し、身分に関係なく院生の受け入れ枠、予算、研究室面積などが平等に扱われている。また、日本と異なり、アメリカをはじめ多くの国々同様、学部生が卒論研究の為、研究室に所属することはソウル大学ではなく(いくつかの韓国の大学では実施)、研究の原動力として、院生の活躍が大きく期待されている。特にソウル大学の院生は外部資金による研究費、TA予算あるいはBrain Korea 21(日本のCOEに相当)研究基金から人件費が支給されている事もあり、大学院入学希望者は多い。

韓国獣医解剖学会の紹介も少々。学術集会は年1回各大学持ち回りで開催される。本年度の学術集会は2月11日に済州大学で開催され、集会前夜には全国の解剖学担当教員が一同に介し、ディープな懇親会が開かれた。各大学の研究の紹介も兼ねた口頭発表が10題、ポスター発表は24題であった。尚、ポスターおよび講演要旨の表記はすべて英語である。発表内容は日本と同様の傾向があり、細胞生物学、神経解剖学、発生生物学あるいは毒性学的内容が多く、肉眼解剖学的な研究は少ない。私事であるが、私の研究室から韓国野生動物に関する肉眼解剖学的発表を3題行い、そのうち、“韓国の野生反芻動物(キバノロ、ゴールル)胎盤の肉眼解剖学的観察”について発表した院生がベストポスター賞を受賞し、嬉しく思っている。

以上、ソウル大学に2007年12月から勤務を始め、知る範囲で韓国における教育事情を述べました。ご意見、ご質問などをお待ちしています。(木村順平 [kimura@snu.ac.kr](mailto:kimura@snu.ac.kr))



獣医解剖学を受講した学生達と。彼らが卒業し、リーダーとして韓国の獣医学発展に必ずや活躍すると期待している。

## オーストラリア留学

吉岡 一機 (北里大・獣医解剖)

会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私は2009年1月から2010年7月までの1年7ヶ月間、オーストラリア・クィーンズランド州ブリスベンにあるクィーンズランド大学獣医学部に留学しました。

ブリスベンはオーストラリア第三の都市で人口は170万人程の州都です。気候は一年を通して温暖で、南のゴールドコーストから北のサンシャインコーストまで美しいビーチが続いています。北国生まれに加え長い間青森に住んでいるため暑さに対し不安がありましたが、行ってみると休みの日の多くはビーチで海水浴や読書を楽しみ、すっかり暑い夏を満喫していました。

研究に関しては有袋類における消化器の形態学的特徴をテーマとし、特にコアラについては希少な動物にもかかわらず、感染症の蔓延や交通事故の増加により多くの検体を解剖する機会に恵まれ、若干の知見を得ることができました。その他、単孔類であるエキドナ、ポッサム、ワラビー、グライダーといった有袋類も解剖することができたことは貴重な経験となりました。

今後さらに研究・教育に励みたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



ブリスベン川沿いのサウスバンクから見るブリスベン CITY

## 日本獣医解剖学会懇親会のお知らせ

神田 尚俊 (農工大・獣医解剖)

第151回日本獣医学会において獣医解剖学会懇親会を下記のように開催します。お手数ですが、各所属研究室単位で参加予定者名簿を職員・学生別に於て3月23日までに神田までお知らせ下さい。

日時: 平成22年3月31日(木) 6:00~8:00

場所: 農工大、50周年記念ホール(農学部正門の道路向かい側で、本部棟の隣)

会費: 教員:4,000円, 学生:1,000円

連絡先: 農工大獣医解剖学研究室

神田尚俊: [kanda@cc.tuat.ac.jp](mailto:kanda@cc.tuat.ac.jp) Tel&FAX:042-367-5765

## 日本獣医解剖学会奨励賞公募

対象学会: 第151回日本獣医学会(東京農工大学、東京都府中市)

締め切り: 2011年3月11日(金) (必着)

連絡先: 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学、農学部、獣医学科、獣医解剖学研究室

神田 尚俊 Tel: 042-367-5765 Fax: 042-367-5765

E-mail: [kanda@cc.tuat.ac.jp](mailto:kanda@cc.tuat.ac.jp)

\*奨励賞の内規は日本獣医解剖学会ホームページをご参照下さい。

### 【奨励賞一般部門】

応募資格: 1) 35歳未満の者。但し、留学生はこの限りではない。

2) 日本獣医解剖学会に1年以上の会員歴を有し、筆頭著者としてその回を含めて2回以上発表経験のある者。

3) 奨励賞応募を希望される方は、上記の連絡先に講演要旨および対象者である旨を明記した用紙(略歴, 研究業績, 教育業績, 入会年月日を含む)を送付して下さい。

### 【奨励賞学部学生部門】

応募資格: 1) 対象者は学部学生に限る。

2) 日本獣医解剖学会学生会員であること。但し、会員歴は問わない。

3) 奨励賞学部学生部門応募を希望される方は、上記の連絡先に講演要旨および対象者である旨を明記した用紙(略歴, 研究業績を含む)を送付して下さい。

## 学生の日本獣医学会(於:東京農工大)参加費(三千元)補助の件

### ・補助の条件

- ※ 学部生ないし大学院生で日本獣医解剖学会学生会員であること。
- ※ 今回の日本獣医学会/日本獣医解剖学会で筆頭著者として発表すること。但し、他分科会で発表の場合は補助の対象としない。
- ※ 教員等、本人以外が代理発表した場合は、補助の対象としない。

### ・参加費の受け渡し

- ※ 日本獣医解剖学会理事会、総会の折り、講座ごとにまとめて、指導教員が学生に代わって会計担当者(東大・九郎丸)より代理受給する。指導教員は責任をもって学生に支給する。
- ※ 指導教員が理事会、総会に出席できない場合は、それ以外の日時に会計担当者にコンタクトを取り、代理受給する。
- ※ 補助対象の学生がいる場合は、3月22日(火)までに会計担当者([amkuroh@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:amkuroh@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp))にメールで学生の名前と学年を連絡しておく。

## 【日本獣医解剖学会】若手勉強会のご案内

日時: 2011年3月30日(水)17:30~20:30

場所: 東京農工大学府中キャンパス

対象者: 日本獣医解剖学会員 (特に助教や講師の方には是非ご参加頂きたい存じます)

開催日程: 17:30(獣医解剖学シンポジウム終了後) ~18:30 勉強会

演題: 東京農工大学における獣医解剖学教育の取り組みと施設の紹介

演者: 柴田秀史先生(東京農工大学・獣医解剖学研究室)

会場: 東京農工大学・組織学/病理組織学実習室(4号館128号室)

18:30~20:30 親睦会

近隣の飲食店を予定(追ってご連絡します)

親睦会に参加される方は、人数を把握したいので、農工大・柴田先生([shibata@cc.tuat.ac.jp](mailto:shibata@cc.tuat.ac.jp))まで3月18日(金)までにご連絡ください。

# 第 151 回日本獣医学会学術集会の御案内

神田 尚俊 (東京農工大)

標記大会が東京農工大学を主会場に3月30日~4月1日の3日間開催されます。最新情報は学会ホームページをご覧ください。このうち、日本獣医学解剖学会は3月30日の午後から31日の全日です。関連集会、プログラムは下記の通りです。

## 【関連集会】

- 3月30日:日本獣医学解剖学会若手勉強会(17:30-18:30)  
4号館128実習室
- 3月31日:日本獣医学解剖学会理事会(12:00-13:00) 本館第二会議室  
日本獣医学解剖学会総会(17:30-18:00) 1講-24教室  
日本獣医学解剖学会懇親会(18:00-20:00) 50周年記念ホール

## 日本獣医学解剖学会プログラム

### 【シンポジウム】

3月30日(水) 第6会場 13:30~17:00

#### 左右非対称な形態形成の分子生物学

座長:伊藤 功(九州大)、白鳥秀卓(大阪大)

- AS1-1** 平面内細胞極性によるノード繊毛の回転軸方向の決定  
○橋本昌和<sup>1,2</sup>、Anthony Wynshaw-Boris<sup>3</sup>、濱田博司<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>基礎生物学研究所 形態形成研究部門、<sup>2</sup>大阪大学 大学院生命機能研究科、<sup>3</sup>University of California, San Francisco Department of Pediatrics)
- AS1-2** 左右決定が99.99%のCanalizationを達成する仕組み  
○中村哲也(大阪大学 生命機能研究科)
- AS1-3** 上皮細胞のキラリティによる左右非対称な形態形成の機構  
○松野健治(東京理科大学 基礎工学部生物工学科)
- AS1-4** マウスの左右非対称な器官形成機構  
○白鳥秀卓(大阪大学 生命機能研究科発生遺伝学研究室)
- AS1-5** ゼブラフィッシュ手綱核神経投射における左右非対称性  
○岡本 仁(理化研)
- AS1-6** マウス海馬神経回路の左右非対称性  
○伊藤 功(九州大学 理学研究院 生物科学部門)

3月31日(木) 第4会場 15:30~17:30

#### 獣医学領域における化学遺伝学の黎明

座長:小川健司(理化研)、保坂善真(鳥取大)、坂上元栄(麻布大学)

- AS2-1** 糖鎖を修飾する硫酸基の機能~コンドロイチン硫酸種の脂肪分化への作用  
○保坂善真<sup>1</sup>、一柳 剛<sup>2</sup>、田村純一<sup>3</sup>、上原正人<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鳥取大 農・獣医解剖、<sup>2</sup>鳥取大 農・有機化学、<sup>3</sup>鳥取大 地域・地域環境)
- AS2-2** 神経行動毒性発現解析とケミカルバイオロジー研究領域との接点を探る(幼若期マウスへのイボテン酸投与による遅発中枢影響解析)  
○種村健太郎、菅野 純(国立医薬品食品衛生研究所 毒性部)
- AS2-3** 標識ステロイドの合成とケミカルバイオロジーへの応用  
○岡本真由美(早稲田大 先進理・応用化学)
- AS2-4** 植物ステロイドホルモンを基にした植物-動物種間の進化ケミカルバイオロジー研究への試み  
○中野雄司<sup>1,4</sup>、山上あゆみ<sup>1</sup>、嶋田勢津子<sup>1</sup>、中野明彦<sup>1,2</sup>、小川健司<sup>1</sup>、浅見忠男<sup>1,3</sup>  
(<sup>1</sup>理化研 基幹研究所、<sup>2</sup>東大院 理学研究科、<sup>3</sup>東大院 農学生命科学研究科、<sup>4</sup>JST-さきがけ)
- AS2-5** 破骨細胞を標的とする小分子化合物の化学遺伝学的解析  
○川谷 誠、長田裕之(理化研 基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究基盤施設)
- AS2-6** 環境化学物質の胎生期曝露による表現型の変化—エピジェネティクスと環境毒性学—  
○大迫誠一郎(東大院)

## 【ポスターセッション】

3月31日(木) ポスター会場

コアタイム 11:00~12:00

- AP-1** 旧世界サル4種においてrRNA遺伝子座をもつ染色体の構成ゲノムの比較研究  
○大貫ゆう希、柴田秀史、神田尚俊(農工大 農・獣医解剖)
- AP-2** アカゲザルの1例で観察されたrRNA遺伝子座の細胞間多型の解析  
○平野慧真、柴田秀史、神田尚俊(農工大 農・獣医解剖)
- AP-3** 末梢セロトニン投与による肥満マウス褐色脂肪組織のミトコンドリア機能の活性化  
○齋藤 遼、渡邊一史、齋藤和輝、中野辰也、高橋 遊、長澤裕哉、大和田修一、渡邊康一、山口高弘、麻生 久(東北大 農・機能形態学)
- AP-4** 樹立したマウス褐色脂肪前駆細胞(MBP細胞)の性状  
○齋藤和輝、渡邊一史、齋藤 遼、中野辰也、高橋 遊、長澤裕哉、大和田修一、渡邊康一、山口高弘、麻生 久(東北大 農学研究科)
- AP-5** 破軟骨細胞と破骨細胞におけるタンパク分解酵素の発現に関する研究  
○下尾 旭、添田 聡、小原幸弘、尼崎 肇(日獣大 獣医解剖)
- AP-6** 犬の骨芽細胞分化および成熟における非ステロイド性抗炎症薬の影響  
○呉 南信、須永隆文、山崎裕毅、細谷謙次、高木 哲、奥村正裕(北大 獣・獣医外科)
- AP-7** 馬の腱および軟骨の細胞外基質代謝関連分子に関する基礎的研究  
○金 尚昊、高木 哲、細谷謙次、奥村正裕(北大 獣・獣医外科)
- AP-8** エゾヒゲマの立位動作と二足歩行 — ヒトの二足歩行とどう異なるか  
○藤野 健(東京都老人総合研究所 実験動物部門)
- AP-9** アカボウクジラ(*Ziphius cavirostris*)新生仔の舌形態について  
○進藤順治<sup>1</sup>、岡田あゆみ<sup>1</sup>、天野雅男<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>北里大 獣医学部 生物環境、<sup>2</sup>長崎大 水産学部)
- AP-10** ウォンバットの耳下腺と下顎腺における炭酸脱水酵素(CA)II, VIの局在について  
○坂本容詩江<sup>1</sup>、大石元治<sup>2</sup>、添田 聡<sup>2</sup>、水野哲男<sup>3</sup>、Allan McKinnon<sup>4</sup>、Steve Johnston<sup>5</sup>、市原伸恒<sup>6</sup>、浅利昌男<sup>6</sup>、西田利穂<sup>7</sup>、尼崎 肇<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>日獣大 獣医学科、<sup>2</sup>日獣大 獣医解剖学教室、<sup>3</sup>AJWCEF、<sup>4</sup>クィーンズランド州立モッギルコアラ病院、<sup>5</sup>クィーンズランド大学、<sup>6</sup>麻布大 解剖学第一研究室、<sup>7</sup>麻布大 生理学第一研究室)
- AP-11** オオカンガルーの耳下腺と下顎腺における炭酸脱水酵素(CA)II, VIの局在について  
○西堂智子<sup>1</sup>、大石元治<sup>2</sup>、添田 聡<sup>2</sup>、水野哲男<sup>3</sup>、Allan McKinnon<sup>4</sup>、Steve Johnston<sup>5</sup>、市原伸恒<sup>6</sup>、浅利昌男<sup>6</sup>、西田利穂<sup>7</sup>、尼崎 肇<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>日獣大 獣医学科、<sup>2</sup>日獣大 獣医解剖学教室、<sup>3</sup>AJWCEF、<sup>4</sup>クィーンズランド州立モッギルコアラ病院、<sup>5</sup>クィーンズランド大学、<sup>6</sup>麻布大 解剖学第一研究室、<sup>7</sup>麻布大 生理学第一研究室)
- AP-12** ウシパリエル板M細胞の存在様式およびapoptosis機構の解析  
○本堂哲也、染谷俊輔、寺田俊介、長澤裕哉、高橋 遊、齋藤千夏、渡邊一史、大和田修一、渡邊康一、山口高弘、麻生 久(東北大大学院 農学研究科応用生命科学専攻)
- AP-13** Developmental plasticity of PYY and GLP-1 endocrine cells based on their colocalization pattern in the bovine rectum  
○Asadullah Hamid Pyarokhil<sup>1,2</sup>、石原深雪<sup>1,2</sup>、佐々木基樹<sup>1,2</sup>、北村延夫<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>帯畜大 獣医解剖学、<sup>2</sup>岐阜大院連獣)
- AP-14** プタ肝臓の肝葉間構造の相違と肝臓構築過程における組織構造の経時的変化  
○美名口順<sup>1</sup>、藤田 文<sup>1</sup>、山本かおる<sup>1</sup>、今井克幸<sup>2</sup>、竹花一成<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>酪農大 組織解剖、<sup>2</sup>秋田大 細胞生物)
- AP-15** マウス胆嚢・胆道系の形態形成における内胚葉形成因子SOX17の役割  
○倉澤洋子<sup>1</sup>、上村麻実<sup>2</sup>、三浦雄太郎<sup>1</sup>、張替香生子<sup>1</sup>、恒川直樹<sup>1</sup>、金井正美<sup>2</sup>、金井克晃<sup>1</sup>、九郎丸正道<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東大 農・獣医解剖、<sup>2</sup>東京医科歯科大 実験動物センター)
- AP-16** 母体副腎が胎子肺の分化に及ぼす影響  
○山本雅子、鎌田有里子、阪田有紀子、坂上元栄、有嶋和義(麻布大 解剖学第二)
- AP-17** 健常犬の腎臓におけるレクチン組織化学的研究  
○矢吹 映<sup>1</sup>、藤木 誠<sup>2</sup>、三角一浩<sup>2</sup>、大和 修<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大 獣医臨床病理、<sup>2</sup>鹿児島大 獣医外科)



**AP-18** 慢性腎臓病におけるmicroRNAの発現解析—腎間質病変に関与するmi-R146a—

- 市居 修<sup>1</sup>、大塚沙織<sup>1</sup>、並木由佳<sup>2</sup>、佐々木宣哉<sup>3</sup>、橋本善春<sup>2</sup>、遠藤大二<sup>4</sup>、昆 泰寛<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>北大院 獣医解剖、<sup>2</sup>北大院 獣医学教育改革室、<sup>3</sup>北大院 獣医実験動物学、<sup>4</sup>酪農大 獣医放射線生物学)

**AP-19** マウスの精子発生環境および生殖幹細胞ニッチの維持に対するFluid flowの重要性

- 相山好美<sup>1</sup>、米田明日香<sup>1</sup>、稲垣麻由子<sup>1</sup>、上村麻美<sup>2</sup>、張替香生子<sup>1</sup>、恒川直樹<sup>1</sup>、金井克晃<sup>1</sup>、九郎九正道<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東大 農・獣医解剖、<sup>2</sup>東京医科歯科大 実験動物センター)

**AP-20** ヨザル(*Aotus lemurimus*)雌性生殖器の形態学

- 高島大樹<sup>1</sup>、日下部健<sup>1</sup>、脇谷晶一<sup>1</sup>、服部正策<sup>2</sup>、倉石 武<sup>2</sup>、吉澤 緑<sup>3</sup>、甲斐知恵子<sup>2</sup>、木曾康郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>山口大、<sup>2</sup>東大、<sup>3</sup>宇都宮大学)

**AP-21** MRLマウス新生子卵巣における肥満細胞の出現

- 中村鉄平<sup>1,2</sup>、市居 修<sup>1</sup>、大塚沙織<sup>1</sup>、並木由佳<sup>3</sup>、長崎健一<sup>2</sup>、服部秀樹<sup>2</sup>、橋本善春<sup>3</sup>、昆 泰寛<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北大院 獣医解剖、<sup>2</sup>財)日本食品分析センター千歳研究所、<sup>3</sup>北大 獣医学教育改革室)

**AP-22** MRL/MpJマウスにおける卵巣網由来卵巣嚢腫の経時的観察

- 李 慎暁<sup>1</sup>、大塚沙織<sup>1</sup>、市居 修<sup>1</sup>、並木由佳<sup>2</sup>、橋本善春<sup>2</sup>、昆 泰寛<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>北大院 獣医解剖、<sup>2</sup>北大院 獣医学教育改革室)

**AP-23** マウス卵管における旨味、甘味および苦味受容体の発現

- 小松志帆、谷口和美、後藤俊介、藤野直子、武藤藤一郎  
(北里大 獣医畜産学部・獣医学科)

**AP-24** マウス子宮における自然免疫の変化

- 杉本裕亮<sup>1</sup>、竹内崇師<sup>1</sup>、吉田真洋<sup>1</sup>、保永洋平<sup>2</sup>、太田康彦<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鳥取大 農・実験動物、<sup>2</sup>山口大院連獣)

**AP-25** 白血病阻止因子のマウス子宮内Indian hedgehog標的遺伝子に対する影響

- 脇谷晶一<sup>1</sup>、檜山雅人<sup>2</sup>、日下部健<sup>1,2</sup>、太田康彦<sup>1,3</sup>、木曾康郎<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>山口大院連獣 基礎獣医、<sup>2</sup>山口大 獣医解剖、<sup>3</sup>鳥取大 実験動物)

**AP-26** 自然発症皮膚炎マウスモデルの妊娠子宮におけるTh1/Th2サイトカインと成長因子

- 杉元聡子、日下部健、脇谷晶一、木曾康郎 (山口大 農・獣医解剖)

**AP-27** マウスの膣における妊娠維持と免疫機構

- 吉田真洋<sup>1</sup>、杉本裕亮<sup>1</sup>、竹内崇師<sup>1</sup>、保永洋平<sup>2</sup>、太田康彦<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鳥取大 農・実験動物、<sup>2</sup>山口大院連獣)

**AP-28** A study of glucose transporters, GLUT1 and GLUT3, in the rabbit placenta during successful pregnancy

- Hamayun Khan、日下部健、脇谷晶一、木曾康郎  
(山口大院連獣 獣医解剖学教室)

**AP-29** マウス胎盤内におけるadipsin産生と自然流産での局所的脂質変化

- 武下 愛<sup>1</sup>、永石翔太<sup>1</sup>、近藤友宏<sup>1</sup>、岡田利也<sup>1</sup>、日下部健<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>大阪府大院獣医・実験動物、<sup>2</sup>山口大 獣医解剖)

**AP-30** 酪酸ナトリウムによる胚着床の誘導

- 吉岡竜太、脇谷晶一、杉 晋二、日下部健、木曾康郎  
(山口大 農・獣医解剖)

**AP-31** Comparative studies on hemal nodes, lymph nodes and spleen in cattle

- Weidong Zhang<sup>1,2</sup>、Mashairo Yasuda<sup>1</sup>、Hitomi Takatori<sup>1</sup>、Yoshinao Hosaka<sup>2,3</sup>、Tetsuo Nasu<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>宮崎大 農・獣医解剖、<sup>2</sup>山口大院連獣 基礎獣医学、<sup>3</sup>鳥取大 農・獣医解剖)

**AP-32** ラット動脈管におけるNOS発現経路に対する副腎皮質ホルモンの影響

- 館野奈央、村田奈津子、門田祥吾、宮崎陽子、田中和明、滝沢達也  
(麻布大 動物工学)

**AP-33** ラット頸動脈小体におけるセロトニン合成・分泌関連分子の発現

- 横山拓矢<sup>1</sup>、若井 淳<sup>1</sup>、松田秀樹<sup>2</sup>、日下部辰三<sup>3</sup>、山田美鈴<sup>1</sup>、山本欣郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>岩手大 農・獣医細胞システム学、<sup>2</sup>横浜市立大 医・耳鼻咽喉科、<sup>3</sup>国士館大 体育・スポーツ医科学)

**AP-34** 中脳黒質網様部におけるグリシン受容体の局在

- 渡邊菜の子<sup>1,2</sup>、山田勝也<sup>3</sup>、山田美鈴<sup>1,2</sup>、山本欣郎<sup>1,2</sup>  
(<sup>1</sup>岩手大 農・獣医細胞システム、<sup>2</sup>岐阜大院連獣 基礎獣医学講座、<sup>3</sup>弘前大学大学院 医学研究科・統合機能生理学)

**AP-35** 中脳黒質網様部におけるドパミンD5受容体の分布

- 斎藤匠人<sup>1</sup>、山田勝也<sup>2</sup>、山田美鈴<sup>1</sup>、山本欣郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>岩手大 農・獣医細胞システム、<sup>2</sup>弘前大 医・統合機能生理)

**AP-36** コアラの副嗅球におけるGTP結合タンパクサブユニットの発現

- 川崎茉莉奈<sup>1</sup>、永浦香里<sup>1</sup>、添田 聡<sup>1</sup>、McKinnon Allan<sup>2</sup>、Johnston Steve<sup>3</sup>、大石元治<sup>1</sup>、尼崎 肇<sup>1</sup> (<sup>1</sup>日獣大 獣医解剖学教室、<sup>2</sup>オーストラリアコアラ保護病院、<sup>3</sup>クィーンズランド大学)

**AP-37** Temporal profiles of synaptic plasticity-related signals in adult mouse hippocampus with methotrexate treatment

- CHANGJONG MOON<sup>1</sup>、Miyoung Yang<sup>1</sup>、Hyosun Jang<sup>1</sup>、Juhwan Kim<sup>1</sup>、Sung-Ho Kim<sup>1</sup>、Jong-Choon Kim<sup>1</sup>、Taekyun Shin<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>Chonnam National University Veterinary Anatomy、<sup>2</sup>Jeju National University Veterinary Anatomy)

## 日本獣医解剖学会理事会・総会

理事会：3月31日(木)12:00～13:00 (於：本館第2会議室)

総 会：3月31日(木)17:30～18:00 (於：第4会場)

- 1 獣医学会理事会報告 (総会のみ)
- 2 分科会長会議報告 (総会のみ)
- 3 平成22年度会計報告 (理事会のみ)
- 4 編集委員会報告 (総会のみ)
- 5 獣医組織学第五版の発刊について
- 6 共通テキストについて
- 7 獣医解剖組織技術の継承について
- 8 平成23年度秋期学術集会について
- 9 今期学術集会奨励賞選考結果について (総会のみ)
- 10 平成22年度秋期学術集会奨励賞の表彰 (総会のみ)
- 11 獣医解剖学会懇親会案内
- 12 その他

## 日本獣医解剖学会奨励賞の選考について

北村 延夫 (帯広畜産大学)

第150回日本獣医学会学術集会(帯広)の際の日本獣医解剖学会において、口演が2010年9月17日と18日に行われました。そのうち奨励賞一般部門には3件、学生部門には7件の応募がありました。学会内規では副会長2名と当番校が審査委員(計3名)となっていますが、今回は副会長1名と当番校1名が関係者となりましたので委員を辞退し、谷口和之副会長、尼崎肇先生、山本雅子先生に御審査いただきました。その結果、一般部門には、Asadullah H. Pyarokhil 氏(岐阜大学大学院連合獣医学研究科、帯広畜産大学獣医解剖学教室配属)の「Immunohistochemical study and quantitative evaluation of endocrine cells in the large intestine of suckling and weaned calves.」が選出されました。また、学生部門には、木村純平 氏(北海道大学獣医学部比較形態機能学講座解剖学教室)の「尿中脱落細胞の動態は腎疾患の増悪と相関する-糸球体腎炎モデルの解析」ならびに小崎功太郎 氏(北里大学獣医解剖学教室)の「腎臓における味覚受容体 T1R ファミリーの発現について」が選出されました。今回選出されなかった発表も立派な研究であったとことです。応募していただいた方々ならびに会員諸氏に御礼申し上げます。

## 日本獣医解剖学会奨励賞受賞者「喜びの声」

一般部門 (第23号)

Asadullah Hamid Pyarokhil (Obihiro Univ. Agr. Vet. Med.)



of the congress and JAVA for awarding me.

In my research work, I determined and evaluated the quantitative distribution and frequency of six types of endocrine cells in eleven different locations of a

bovine large intestine. We found that the distribution of endocrine cells vary from segment to segment in the large intestine and are more numerous in the distal parts. Our study suggested that the huge number of endocrine cells in the large intestine - especially the distal portions of the colon and rectum - might be related to the physiological importance of those portions regarding the regulation of the digestion including the fermentation, and the absorption.

It was a very exciting moment for me and the award has greatly encouraged me to put forth greater efforts for the future.

Thank you very much

## 学生部門 (第 15 号)

木村 純平 (北大・獣医解剖)



この度は、第 150 回日本獣医学会学術集会におきまして、荣誉ある解剖学会奨励賞を頂くことができ、非常に喜ばしく思っております。選考委員の先生方ならびに関係諸先生方に厚く御礼申し上げます。本研究では、糸球体腎炎において、腎臓由来の尿中脱落細胞の動態が疾患の増悪と関連することを示しました。元々私自身が腎臓に興味があったことから始めた研究でしたが、調べれば調べるほどその奥の深さを知り、また面白さに惹かれていきました。春からは、

研究者として新薬・診断薬の開発に貢献していきたいと考えておりますので、今回の受賞は、今後の研究活動への大きな励みとなりました。解剖で身に付けた知識と考え方は、今後の研究生活でも必ず役立つと思います。最後に、今回の受賞は昆泰寛教授を始めとする解剖学教室構成員のご指導、ご協力によるものであります。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

## 【お知らせ】

日本獣医解剖学会奨励賞学生部門受賞者(第 16 号)の小崎巧太郎氏(北里大)の「喜びの声」につきましては次号に掲載させていただきます。

## 【訂正とお詫び】

ニュースレター 36 号に掲載されました日本獣医学会優秀ポスター賞受賞者「喜びの声」で、受賞者 藤野 健 氏(東京都老人研究所)の氏名が誤記されておりました。訂正して心からお詫びを申し上げます。

## 第 152 回日本獣医学会学術集会のお知らせ

小川 和重 (大阪府立大学)

標記大会が、平成 23 年 9 月 26 日(月)～28 日(水)の会期で全日空ゲートタワーホテル大阪を会場として開催されます。会場は大阪府立大学・りんくうキャンパスから徒歩で 5 分程度です。詳しくは学会ホームページ(<http://www.meeting-jsvs.jp/152/index.html>)をご覧ください。

日本獣医解剖学会は 26 日と 27 日の予定です。27 日には、同理事会、総会、懇親会(犬鳴山温泉, 1泊)も予定しています。会員の皆様にご出席をお願いいたく、ご案内申し上げます。

## 日英語版 DVD 「ムービーで見る犬の解剖学実習 —前肢と後肢—」作成の試み

橋本 善春 (北大獣医学研究科獣医学教育改革室/解剖学教室)

近年医学教育分野においても IT 技術を用いた動画教材が作成されるようになりました。数多くの教育用 DVD が市販され、時を選ぶことなく自分のスケジュールに合わせて学習することが出来るため、効果的に必要な知識が得られる教材として広く利用されています。獣医解剖学教育分野においても、欧米の獣医解剖学教室からいくつかのマルチメディア・プログラムがリリースされています。只今その中の一つで私達の獣医解剖学実習教育に利用できる、犬の解剖手順を詳細に写し出すムービーの日・英語版 DVD の作成を試みています。

この犬の解剖学ムービーは、ハンガリー・ブダペスト大学獣医解剖学教室、Prof. Dr. Sotonyi の手になるもので、先に「Anatomia Canis」のタイトルをもつ独語版および英語版の 2 枚組 CD として少数部が刊行されたものです。すでにご存知の方もおられることでしょう。このタイトルの内容は、犬の運動器を前肢(*Extremitas cranialis*)と後肢(*Extremitas caudalis*)に分けて、それらの構造の解剖手順を前肢帯から指端まで、および後肢帯から趾端まで関節や筋、血管、神経などの分布と名称について各 20 篇以上の精細な動画ファイルを用いて順に示してゆくものです。術者の優れた解剖手技と相まって、これまで触れることのなかった部位やうっかり見落としていた構造についても繰り返し見返して確認することが出来ます。音声については画像の動きにしたがって日本語または英語のナレーションが入っており、画面内の構造物をより正確に耳からも確認する

ことが出来ます。そして画面内には常に必要な和名ないし英語名の獣医獣医解剖学用語が現れて各構造をより一層深く理解させてくれます。

只今この日英版 DVD の国内発売に向けて最終的な技術的調整を行っているところです。我が国の獣医学教育内容改善の見地から、早い機会に皆様のお手元にお届けして動物の解剖学実習等に使用していただけることを願っています。

## 獣医組織学第 5 版の発行について

獣医組織学第 5 版編集委員長  
昆 泰寛 (北海道大学)

「獣医組織学第 5 版」3 月発行予定です。ニュースレター発刊時には印刷中と思います。本誌の執筆編集活動は平成 11 年 3 月の初版から数えると、実に 12 年を経過しました。日本獣医解剖学会が編集する本誌は多くの先生の「汗」と「知」の結晶でなりたっており、ここに日本獣医解剖学会として感謝の意を表すものであります。また、原図をご提供いただいた方々に敬意を表し、各図に可能な限り提供者を記載してございます。すみませんが、間違いがありましたら次版にて修正します。

第 5 版では執筆者を増やしました。それには 3 つの意図があります。1 つ目は執筆者の負担を減らすことです。2 つ目は後継者(候補)を育てることです。3 つ目は新進気鋭の先生達に「日本獣医解剖学会」の活動に興味と責任をもっていただくことです。今回、新たに執筆に参加された方々が、本誌を熟読・熟慮され、より良いものにしていただくことを祈念してやみません。

最後に、今回編集委員長を仰せつかったことは晴天の霹靂であり、各所においてトラブルご立腹多々お有りかと存じますが、ご容赦いただきたくお願い申し上げます。

## ✿ 人物往来 ✿

### 異動

- 1) 本道 栄一 先生  
山口大学農学部獣医学科 生体機構学講座 家畜解剖学研究室 准教授から名古屋大学大学院農学研究科 生物機構・機能科学専攻 動物形態情報学研究室 教授に  
(平成 22 年 4 月 1 日付)
- 2) 渡邊 敬文 先生  
いぶり農業共済組合東部家畜診療所勤務獣医師から信州大学農学部食料生産科学科動物生体機構学研究室の農学部プロジェクト研究推進拠点助教に (平成 22 年 10 月 1 日付)
- 3) 前田 誠司 先生  
兵庫医科大学解剖学講座(細胞生物部門)講師から同教室准教授に昇任 (平成 22 年 10 月 16 日付)
- 4) 日下部 健 先生  
大阪府立大学生命環境科学研究所 実験動物学教室 助教から山口大学農学部獣医学科 生体機構学講座 獣医解剖学研究室 准教授に  
(平成 22 年 11 月 1 日付)

### 留学

- 1) 割田 克彦氏 (香川大医学部・神経機能形態学研究室, 助教)  
留学期間: 2011 年 4 月～(2, 3 年間)  
留 学 先: Dept. Pathol., Sch. Med., Univ. Pittsburgh, PA, U.S.A.

### 学位取得

- 1) ミュラー 樹 氏 (大阪府立大学)  
題目: EphB and ephrin-B expression and their function in the myocardial tissue.  
授与日: 2010 年 9 月 30 日  
授与大学: 大阪府立大学・博士(獣医学)
- 2) Safwat Ali Mohamed Ali 氏 (鳥取大学・獣医解剖)  
題目: Spatiotemporal distribution of proteoglycans in the developing and adult mouse retina.  
授与日: 2011 年 3 月 16 日  
授与大学: 山口大学連合獣医学研究科・博士(獣医学)
- 3) 内田 真輔 氏 (鳥取大学・獣医解剖)  
題目: ニワトリ終脳におけるグリア細胞の分布および形態からみた領域化について  
授与日: 2011 年 3 月 16 日  
授与大学: 山口大学連合獣医学研究科・博士(獣医学)



**学窓社**

解剖学会関連書籍案内

〒 113-0024 東京都文京区西片 2-16-28

☎ 03-3818-8701 FAX 03-3818-8704

ご注文と書籍の情報は HP (<http://www.gakusosha.com>) もご利用ください。

**学会関連話題の書籍**

☆組織学を学ぶ楽しみが味わえる。

●**獣医組織学《第四版》**



日本獣医解剖学会 編  
A4 変型判/上製本/360 頁  
定価 9,975 円(税込) 送料 520 円  
CD-ROM つき

日本初の組織学のオリジナル教科書『獣医組織学』第四版。従来の内容を最新の情報に一新し、「腱」、「骨髓骨」など新たな項目も追加。また、写真も多数追加され、より高度な組織学を学ぶことができるように構成。知りたい情報がひとめでわかるように使いやすさ、見やすさも向上。付録の CD-ROM には書籍に掲載された写真をすべて収録。組織学を学ぶ学生だけでなく、もっと組織学について知りたい獣医師にもおすすめできる一冊。

**待望の《第五版》  
間もなく発刊!!**

**学会関連ベストセラー**

☆自ら色づけすることで解剖学を楽しく学習!!

●**犬の解剖カラーリングアトラス**



Robert A. Kainer / Thomas O. McCracken 著  
日本獣医解剖学会 監修  
A4 変型判/ツインリング製本/240 頁  
定価 3,990 円(税込) 送料 520 円

図版の説明に従い、名称や用語、矢印や線に自ら色を塗ることで、それぞれの器官の位置や形、大きさが明瞭となり、楽しみながら学習することができる。また、飼い主へのインフォームド・コンセントにも活用できる。

☆分子遺伝学の知識も多数取り入れた最新版!!

●**獣医発生学**

T.A. McGeady / P.J. Quinn / E.S. FitzPatrick / M.T. Ryan 著  
谷口 和之/木曾 康郎/佐藤 英明 監修  
A4 判/並製本/412 頁  
定価 9,450 円(税込) 送料 520 円

動物の細胞、組織、器官、身体系統など、各部位別に発生学的局面を豊富なイラストとともに解説。年齢決定や突然変異、奇形発生についても詳細に説明。また、ヒトの発生との比較も記載することでより発生学への理解を深めることができる。



**解剖学関連書籍**

☆読んで笑って楽しく学習!!

●**楽しい解剖学 ぼくとチョコビの体のちがい [新装版]**

佐々木 文彦 著 A5 判/並製本/112 頁  
定価 2,100 円(税込) 送料 520 円

「犬の鼻ってどうして濡れてるの?」など、犬の体の不思議、犬と人の体のちがいをイラストを使ってわかりやすく解説。動物を愛するすべての人に読んでほしい本。



あわせて読みたい

☆楽しくて不思議なトリビアの世界、待望の続編!!

●**続・ぼくとチョコビの体のちがい**

犬種ポスターつき

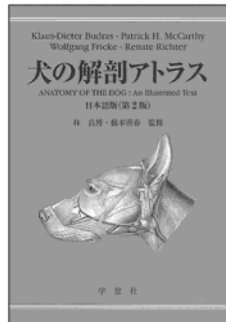
佐々木 文彦 著 A5 判/並製本/160 頁  
定価 2,100 円(税込) 送料 520 円

「人と犬の体ってこんなにちがうの?」体に関する様々な疑問を愉快的イラストとわかりやすい言葉で解説。人と動物の体のちがいが面白いほどよくわかる本。



☆立体的に構造を理解できる革命的なアトラス。

●**犬の解剖アトラス 日本語版《第二版》**



Klaus-Dieter Budras / Patrick H. McCarthy / Wolfgang Fricke / Renate Richter 著  
林 良博/橋本 善春 監修  
B4 変型判/上製本/228 頁  
定価 21,000 円(税込) 送料 520 円

芸術的ともいえるカラー解剖図、犬の身体構造に関する説明の他、X線検査や超音波検査法などの臨床関連項目についても解説されている。

☆猫の身体機能と構造を有機的・立体的に説明。

●**猫の解剖図説**



Stephen G. Gilbert 著 牧田 登之 監訳  
A4 変型判/上製本/130 頁  
定価 13,650 円(税込) 送料 520 円

人と猫の身体的特徴を対比させつつ、猫の解剖学について解説。器官系別に分かれているため、簡便に情報を収集することができる。

☆求められる知識をすべてまとめた一冊。

●**兎の解剖図譜**



R. Barone / C. Pavaux / P.C. Blin / P. Cuq 著  
望月 公子 訳  
B5 判/上製本/240 頁  
定価 10,290 円(税込) 送料 520 円

フランスの獣医解剖学者が総力を上げて完成させた、家兎の解剖に関する決定版。骨、靭帯、筋、内臓、脈管、神経、外皮と感覚器、内分泌腺などの項目ごとに家兎の組織構造を丁寧に説明。